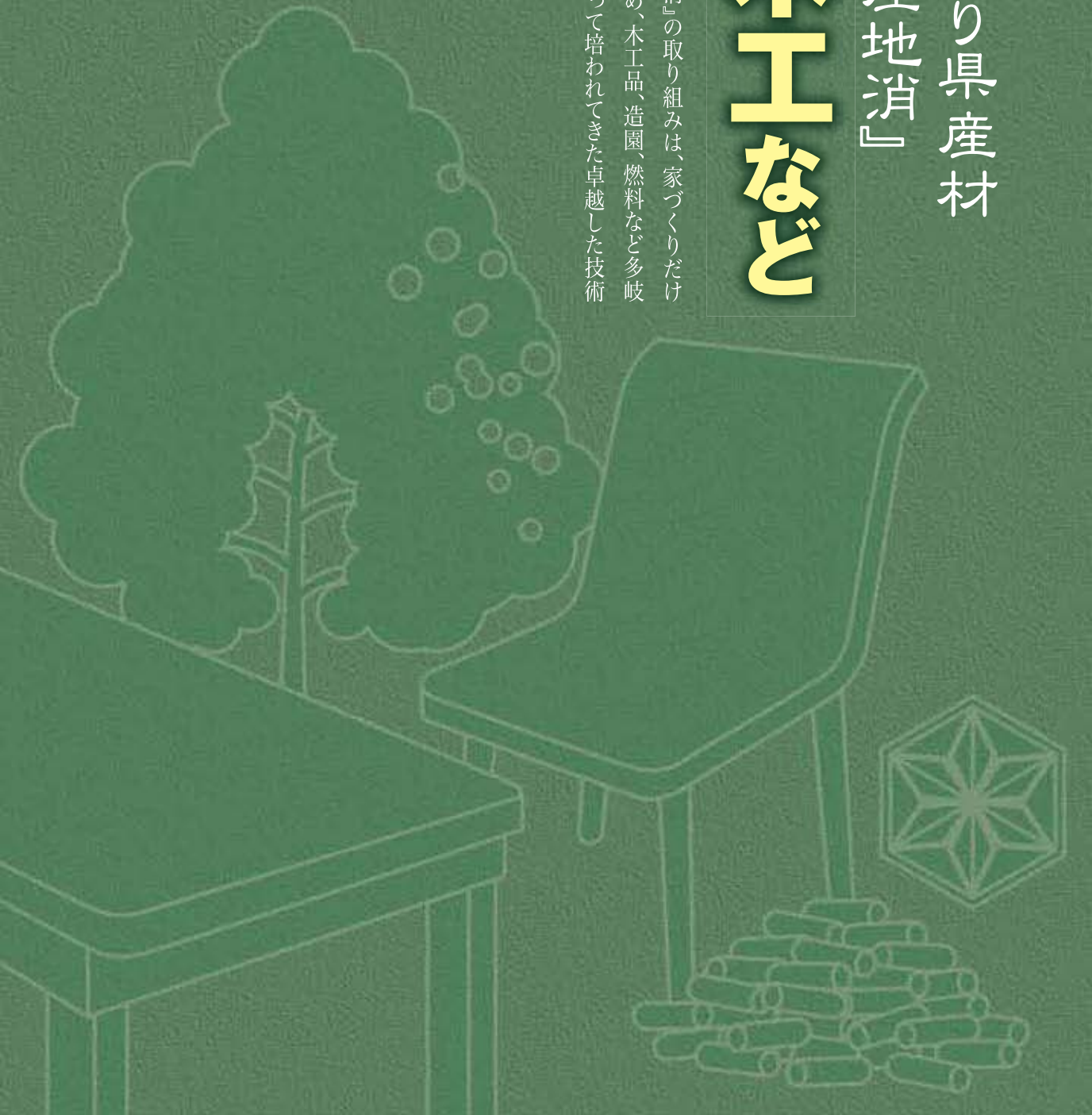
暮らしにぬくもり県産材
『すすめよう地産地消』

家具・木工など

青森県産木材を使用した『地産地消』の取り組みは、家づくりだけではありません。家具や建具をはじめ、木工品、造園、燃料など多岐にわたります。そこには、長年にわたって培われてきた卓越した技術が活きています。



株式会社 愛和家具

青森市

職人技術は地域の財産
若手後継者が組合牽引

青森県木工業組合連合会（木工連）は、106社の会員から成る。未加入を含めれば職人はこの倍くらいになる。それだけの数の職人が青森県内にはいるということだ。職人の匠の技は次代へ引き継ぐべき〝地域の財産〟である。木工連の会長を務めるこの道50年の小川正美氏（愛和家具社長）は、その思いから、「技術集団の存続をはかるためにも職人自ら前面に立って仕事を生み出そう」と呼びかけ、実現したのが、青森県観光物産館アスパム（青森市）で開催した『あおもり木工フェア』（2011年8月）である。展示販売するだけでなく、フェアでの売上金の一部を東日本大震災で津波の被害を受けた八戸市や三沢市に木工連として寄付するなど、地域の支援活動も展開している。

木工連の主催で開催された『あおもり木工フェア』（2011年8月）

愛和家具、木工連を含め県内家具業界全般の今後の展望などについて小川正美社長に伺った。

＊＊＊＊＊

小川正美社長　木工連の中に、若手　30人の『青年部会』（仮称）を設立しました。この業界も他の業界同様に後継者不足の問題を抱えているので、例えば建具屋の親が2代目の息子に〝やる気〟を起こさせ、やる気になった息子の姿を見て親もまた奮起する、といった具合に、活性化をはかろうと若い力を結集させたわけです。

かつて建具や家具職人は、注文に応じて製品を作っていれば良かったのですが、そんな時代はとっくに過ぎ去って、待っているだけでは仕事はきません。そこで、職人自ら消費者と直接触れ合いながら手づくりの建具や家具の味を積極的に売り出そうと始めた取り組みが『あおもり木工フェア』です。また、2011年10月には八戸市協賛で八戸ポータルミュージアム『はっち』において展示会を開催し、延べ600人が訪れ盛況でした。2012年1月には『青森の物産と観光展』として横浜高島屋に木工品を出品しました。

人の集まる場所に家具や建具工芸品を展示すれば、反響はあるものです。観光でアスパムを訪れた際に、ちょうど開催されていた木工フェアをご覧になった

スギのピアノベンチ

スギの建具（框はヒバ）

という岩手や北海道の方から、ヒバ製品の問い合わせの電話がかかってきましたし、茨城や大阪の方からは注文がきました。「県産材の家具はどこに行ったら見られるのか？」とも聞かれます。そういう声が多いということは、関心が高いことの表われです。いち早く（２００９年）、店の１階の家具売り場に地産地消の家具展示コーナーを開設してくださったのが『千葉室内』（青森市）です。続いて、『苅田工業』（八戸市）では同社の工場・事務所の２階にショールームを設けてくれましたし、『新田』（青森市、木工団地）も工場の２階を展示ルームとして開放してくれました。職人手作りの無垢の家具を、見て、触れて、味わってください。

○千葉室内
青森市新町２-８-12
電話　０１７-７２３-４１５１

○苅田工業
八戸市妙字花生８-１２８
電話　０１７８-２５-５１１３

○新田
青森市新城字平岡２２５-８８ 木工団地内
電話　０１７-７８８-３３９３

株式会社 愛和家具

青森市大字油川字千刈55-1
TEL.017-788-8585　FAX.017-788-8593
E-mail : aiwakagu8585@ybb.ne.jp

株式会社 今井産業 モクテック工業

平川市

今井公文社長　県産材エコポイントを使って当社の「リビングテーブル」がほしい、と注文の電話がきました（２０１１年）。県産材で家を建てたり、リフォームをすれば、木材の使用量に応じて県がエコポイントを発行し、県産材で作った家具とか木工品と交換できるのです。リビングテーブルは、当社木工事業部の『モクテック工業』が県産のサクラの木を貼り合わせて製作した座卓で、そのテーブルの写真を、注文された方が、交換の対象品を紹介した冊子「木工品事業者・商品リスト」をご覧になったか、県のホームページで調べるかして、その中からテーブルを選んでくださったものでしょう。

家具職人の山田喜代美さん

　エコポイントの問い合わせは、青森県木材協同組合（県木協・青森市高田）内にある青森県産材認証推進協議会が窓口になっていますので、その方はまず県木協に電話をし、県木協から当社に連絡がきたというわけです。深浦にお住まいの方なんだそうです。県産材で家を新築（あるいはリフォーム）し、エコポイント制度のことを知って注文してくださったのでしょう。地産地消は、大工や家具などの職人たちがその地域で仕事を続けていける環境づくりが目的ですから、それを支援するこの制度がどんどん利用されるようになってほしいものです。

県産材を利用したキーホルダーと栓抜き

　家具は、実際に見てこそ良さが伝わります。パンフレットなどの写真だけでは、形は分かるにしても、無垢材の手触りの良さは伝わりません。その機会を増やそうと参加したのが、平川市の産業会館で開かれた『うめ～どｉｎ食と産業まつり』（２０１１年10月）です。県産の木材で作ったテーブルやイスや小タンスなどを展示したら、家具ってやはり身近なものなんですね、皆さん、親しげな表情を浮かべながら近寄ってきて、眺めたり、触ってみたり、イスに座ってみたりしていました。お客様が関心を示してくだされば、製作した職人も嬉しい。それが励みになり、より良い家具を作ろうという意欲につながります。

　いつもなら、リビングボードやイスなどの家具は当社『虹いろの杜』の展示スペースに飾ってあるのですが、今（２０１１年11月）はフランスへ行っています。パリで２０１２年１月に開催される『メゾン・エ・オブジェ』に出品するのです。家具ばかりじゃなく、津軽塗とかブナコ細工も出品します。この『メゾン・エ・オブジェ』は、世界各国から生活空間（家）を彩るあらゆるインテリアやデザイン関連製品が集まる世界最大級の見本市で、２００５年から設けられ

津軽の家具 パリで展示
〝地産地消〟から世界へ

サクラの木を貼り合わせたリビングテーブル

たジャパンブースに、津軽の地域資源を生かした製品として展示するのです。〝地産地消〟から世界への販路拡大も期待されます。

自分の作った家具が外国でも使われるとなれば、職人の制作意欲はさらに高揚するでしょう。

ヒバのライト

サクラのテーブルキャビネット

自然のぬくもり暮らしの中に
株式会社 今井産業

本　　社●平川市新館藤山16-1
TEL.0172-44-2145 FAX.0172-44-2568
http://www.nijiironomori.net
弘前常設展示場●弘前市泉野3丁目16-4
TEL.0172-55-0440 FAX.0172-55-0441
E-mail : llp-genki@clear.ocn.ne.jp
青森常設展示場●青森市富田4丁目12-22
TEL.017-752-0981

津波で倒れたマツで『薪』づくり
炎天下の陸前高田でボランティア

wood rack
ウッドラック
青森市

東北自動車道の青森中央インターに、4人が乗った車を乗り入れたときには、しらじらと夜が明けていた。愛車『ウッドラック号』の行先は、東日本大震災で大きな被害を受けた陸前高田。岩手県滝沢村の薪ストーブショップと福井県のボランティア団体が、津波で流された高田松原のマツを薪にしてネット販売し、その収益金を全額復興資金として陸前高田市に援助しよう、との呼びかけに呼応し、薪づくりのボランティアに青森から向かうのだった。

チェンソーで玉切りする石村真弓さん

薪ストーブ販売店『ウッドラック』の相馬壮代表、スタッフの石村真弓さん、助っ人の男性2人――の4人のうち、石村さんは2人のお子さんの若きママだが、地域の森林整備に寄与したいと自らチェンソーで山林の樹を伐り倒して、間伐材による薪づくりに精を出し、また高所での作業に臆することなく薪ストーブの煙突を現場に取り付けて回るウーマンパワーは、男顔負けだ。

東和インターで高速を降り、遠野を経て太平洋側の陸前高田に着いたのは午前8時。家もなく町もなく、かろうじてガレキが撤去された道を進むと、ただ茫然と眺めるほかはない光景が炎天下に広がっていた。被害の惨状は予想をはるかに超えていたという。

この日、ボランティアに駆け付けたのはウッドラックばかりではない。薪ストーブメンテナンスの第一人者であるマキメンこと小野沢武生氏(長野市)はじめ、札幌、函館、名古屋、山形、軽米、盛岡からも、熱き思いが炎のように燃えている薪ストーブ輸入代理店や薪ストーブショップ、さらにはストーブユーザーなどの有志20人が参集した。

「いやー、暑いのなんのって、お日様を遮るものがなんにもないから、直射日光もろで、熱中症にかかっちゃいましたよ。なんとか凌ぎましたけど、命がけでした」と相馬代表が振り返る。男でもこたえる茹だるような

ボランティアたちによって玉切りされた薪の山

全国からボランティア活動に集まった有志たち（中列右端で片手をあげる相馬壮代表）

暑さの中、黙々とチェンソーで薪づくりに励んだ紅一点の石村さんは、「次の冬はすぐにやってきます。避難されている被災者のみなさんを薪で暖めてあげたくて」と、日焼けした顔から笑みがこぼれた。

つい半月前の6月中旬にも、相馬代表と石村さんは、青森県LPガス協会が企画した釜石でのボランティアに参加している。そのときは炊き出しであったが、相馬氏は、「この次は青森県内の薪ストーブ業界が連携できれば」と思ったそう。それが、県内の域を超えて全国の連携に発展し、今回の薪づくりボランティアへの参加が実現したのである。

次は復興支援グッズの販売による収益金で被災地に薪ストーブと煙突を送る計画を進めているという相馬氏は、「私たちには帰る家があります。それだけでも恵まれているんです」。その言葉に石村さんは深くうなずいていた。

薪ストーブと木の雑貨
Wood rack
ウッドラック
青森市自由ヶ丘1丁目2-13
TEL.017-752-0133 FAX.017-752-0134
E-mail : info@woodrack.jp
ウッドラック
オーナーズクラブマーク

株式会社 苅田工業

八戸市

苅田恭孝社長　『あおもり型県産材エコポイント』っていいもんだな――と実感するできごとがありました。今年（２０１１年）５月に放送されたＲＡＢの『活彩あおもり』という番組で、県産材を使った家づくりと、県産材を使うことにより施主が取得できる県のエコポイントについて紹介されたのですが、その番組を見た八戸市内のご夫婦が、わざわざ当社の家具ショールームを訪ねてきてくださったのです。

ナラのテーブルとスギのイス

お話をうかがうと、トイレの中に板を張り、木の台を設けた上に手洗いの洗面ボールを据え付けたい――というご要望でした。つまりは木を使ったリフォームのご相談においでになられたのですが、このショールームにきて、展示してあるテーブルとかイスとかを目にしたら、「ほしくなった」と、奥様がイスも購入してくださいました。やはり家具って、実際に物を見て、触れてみて、初めて良さが伝わるものですね。

それから、エコポイントの件で、八戸市内の工務店さんからも電話をいただきました。その工務店で県産材使用の家を建てたお客様が、取得したエコポイントを利用して、テーブルとイスをつくってほしい、というのです。家具を買うお金を準備しなくても、県が発行するポイントで交換できるのですから、お客様にしてみれば大いにお得な話です。

テーブルはタモ、イスはケヤキ

使えるポイントは約20ポイントでした。1ポイントが約７０００円相当ですから、約14万円の予算になります。ナラ材を使って、４人掛けのテーブルと、台座が回転するスギのイス（『夢チェア』）を製作しました。量販店で買った品物とは違って、職人手作りの家具となるとやはり施主様は大事に使ってくれるでしょうし、大事なものは手入れをするから長持ちすることになります。ものづくりの本質ってそこにあるのではないでしょうか。

展示ショールームは、当社の工場・事務所の1階にあります。手作りの家具を、実際に見て、触れて、座ってみたりしていただこうと、昨年（２０１０年）10月に1階のコーナーを利用して開設しました。それを、2階に移す計画です。工場・事務所の建物は総2階で、2階部分は広いワンルーム（約１３０平方メートル）になっていますから、そのスペースをフルに使って、本格的なショールームにしようと準備を進めているところです。

無垢材のなめらかな手触り、

職人手作りのテーブルとイス
『県産材エコポイント』で交換

素足から伝わるあたたかさを実感してこそ、その家具を身近に置きたいという気持ちになるはずです。

いろんな家具を展示しますので、実際に触れて、木の味わいを楽しんでください。

木のぬくもりが伝わってくる手づくりのイスとテーブル

有限会社 苅田工業

本　　社●八戸市柏崎5丁目5-8
工場・事務所●八戸市大字妙字花生8-128
TEL.0178-25-5113 FAX.0178-25-5115

株式会社グリーンフォレスト

青森市

「庭」は一番身近な「自然」木を植え花を育て緑豊かに

平澤英輔社長　青森は豊かな自然に恵まれているのに、家の周りには自然が少ない――以前の勤務先があった県外から帰郷するたびにそう思っていました。見まわせば山に囲まれているのに、家は緑に囲まれていない。「家」だけがあって「庭」がないように思ったものです。

その頃は、ハウスメーカーで設計や現場監督の仕事をしていました。家づくりを通じてだんだんと「庭」に関心を抱くようになったのです。よく「家庭」というのは「家（建築）」と「庭（外構）」からなる、といわれますが、扱われ方は家が主で、庭が従ですよね。いや、庭がない方が多いのではないでしょうか。東京では小さな家でも店でもしっかりと庭をつくり、植物を植えています。街並みの緑の量は、青森の方が圧倒的に少ない。雪対策でコンクリートの外壁の建物が並ぶ〝緑のない〟街並みに味気なさを覚えるようになりました。緑豊かな庭が集まれば街並みも自然が豊かになるはず、との思いが募り、個人の住宅や店舗の庭と、そこでの暮らし方を提案する会社を6年前に立ち上げました。

考えてみれば、「庭」が一番身近な「自然」ですよね。家から一歩庭に出るだけで、そこには緑がある、花がある。自然に親しむ、とか、木に親しむ、といいましても、そのためには山に行かなければなりません。自宅の庭に木を植えれば、最も身近なところで自然に親しめるのではないでしょうか。庭でしたら、お子様が小さいうちから遊びながら親しめますしね。

昨年（２０１０年）から「こども みどりのもり作品コンクール」を始めたのは、そう思ったことがきっかけです。こどもたちに、みどり（植物）を題材とした作品を自由な発想でつくってもらおう――という試みです。植物を通して豊かな心を育んでほしい。植物が二酸化炭素（ＣＯ２）を吸収してくれている（小学校の理科で習いますよね）ということから、地球温暖化に関心の目を向けて、青森の街を、自分たちの将来を、もっとみどり豊かにしよう、と思ってほしいのです。

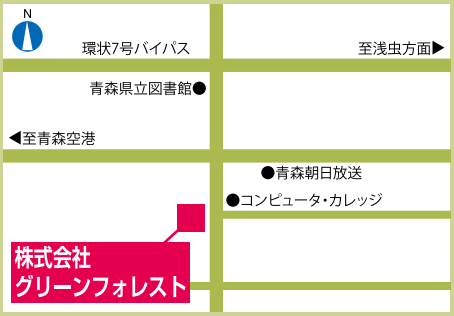
地球温暖化による災害や、環境の変化という深刻な問題が年々多くなっています。今の子供たちが大人になって、親になるときに、地球はいったいどうなっているのでしょう？　安心して、新しい命を育てられる環境であるといいのですが……。

このコンクールが、今の私たちの世代の環境を背負わされる子供たちの未来のためにも、今から、植物や環境に興味を持つきっかけになればと願っています。

県産材エコポイントで交換できる自由設計のスギ小屋

こども みどりのもり作品コンクール
問い合せ
株式会社グリーンフォレスト内
〒０３０-０１１１
青森市荒川柴田１５９-２
電話　０１７-７１８-２６２４

garden design/plants/gardening zakka
青森の庭づくり・ガーデニングと雑貨のお店
株式会社 グリーンフォレスト
青森市荒川柴田159-2
TEL.017-718-2624 FAX.017-718-2625
URL : http://www.greenforest.jp
E-mail : info@greenforest.jp



大健木工

田子町

作業場を訪ねた日、大坊明氏は電動工具を手に作業中であった。工具は、スギの木目を浮き立たせる〝うずくり加工〟をする機械で、製作しているのは木の花瓶という。花瓶を木で作るのだから、木の花瓶。素材の木はスギで、樹齢25～30年の芯持ち（芯がある）の間伐材を使う。

太さは4寸（12センチ）、高さ20センチに切った角材の真ん中に、花を活けるための丸い穴をあける。次に、下部を斜めに削り落として花瓶の形にし、表面に磨きをかける。仕上げる一つ手前の、スギに磨きをかけた段階でも赤身は充分に綺麗だ。それにうずくり加工を施すと、木の柔らかい部分が削られ、硬い部分の木目が波紋のように浮き上がってくる。芯持ち材を使うのは、花瓶の四面の木目を同じにそろえるためである。

木の花瓶を製作中の大坊明氏

作業場の入口に、臼のふちに棒を立てたような〝奇妙な形〟をした物が置かれてあった。「囲炉裏のようなもんです」と父親の大坊健三さんが教えてくれた。なるほど、棒の先端から吊るしている金属が、鍋をかける自在鍵（じざいかぎ）になっている。囲炉裏の底にはキャスターが付いていて、つまりは『移動式囲炉裏』なのであった。

大坊健三さん　明日の朝、3時前に起きて八戸市の館鼻漁港まで軽トラで運んでいくんです。朝市（八戸日曜朝市）に展示するんですよ。館鼻の朝市は日本一の規模で、魚とか野菜とか、せんべい汁とかラーメンとかの食料品の店が４００店も並ぶんです。まだ暗いうちからぞくぞくと3万人も集まるんですよ。

その朝市で、囲炉裏を売るんじゃなく、〝人覚え〟のために店の前に展示するんです。面白いものを作ってる『大健木工』というところがあるよ、という具合にね、話題性だね。お客さんの足を引き止めるのが囲炉裏の役割なんです。

朝市で店の前に展示するという移動式囲炉裏

＊　＊　＊　＊　＊

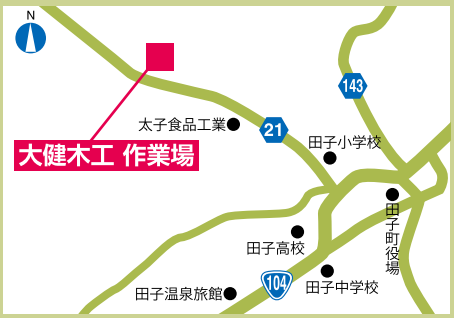
大坊健三さんが木工製作を本格的に始めたのは20年余り前からだ。大工の出稼ぎをしていた昔、合間をみて始めたのがきっかけで、その当時から少しずつ集め出したスギやエンジュ、ナラ、タモ、カツラ、イタヤカエデなどの木材が作業場に山と積まれてある。輪切りにした円いものもあれば、角材を切ったものもある。

間伐材のスギから木の花瓶
うずくり加工で浮立つ木目

健三さんによれば、それらの木々にはみなそれぞれ〝木の喜ぶ形〟がひそんでいるのだという。角材のスギにひそんでいた、スギの喜ぶ形を、職人の技で引き出したのが、木の花瓶なのである。飾る花に応じて、どちらを上にしても使える。

大健木工作業場
田子町を走る国道104号を進むと、街並みを外れたところで道は分岐している。右の県道「田子十和田湖線」へ折れると、『タプコプ創遊村』に至る手前に作業場がある。

美しいスギの木目が浮き立つ“木の花瓶”

大 健 木 工

作業場●三戸郡田子町字清水頭中ノ平1-5
TEL.0179-32-2598 FAX.0179-32-2786